

都 々 逸

解いて結んだ 柳の糸を
じらす心か 春の風

梅も柳も 皆それぞれに
恋のいきじの 腕くらべ

約束の鐘も九つ もう来るはずの
窓に気になる 流れ星

まじないもみんなはずれて おみくじまでが
待ち人来たると うそを言い



サラリーマン川柳

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 追えば逃げ 逃げれば誰も 追ってこず | 6 不景気は 義理を断ち切る 良いチャンス |
| 2 あきらめろ お前は俺の 息子だぞ | 7 達筆ね 読めない時は ほめりゃいい |
| 3 テレビには ガツンと言ってる うちのパパ | 8 急がない その一言に 急がされ |
| 4 気にするな 言われて急に 気にしだし | 9 亭主運 悪いと妻の 日記帳 |
| 5 世の中と 俺の老化は よく進み | 10 タクシーを 止めたとたんに バスが来る |

歴史への招待

【 応 仁 の 乱 】 細川勝元 × 山名宗全

室町幕府の実権は、次第に将軍の手から管領へと移っていった。八代将軍足利義政の時の管領細川勝元は幕府第一の実力者である。義政自身は將軍職から退き、銀閣寺に隠居を考えていた。ところが、義政夫人に義尚が生まれたことで問題が生じたのである。義政は弟の義視を將軍、後見人に細川勝元を、夫人の日野富子は義尚を將軍に、山名宗全を後ろ盾に頼んだ。そして管領の、斯波義敏、畠山義廉がそれぞれについて対立した。

戦いの発端は、1467年十月、畠山政長と畠山義就の武力衝突である。やがて、勝元は將軍義政を自軍に招き入れ、各地の守護大名十六万に招集をかける。一方宗全に十一万が集まった宗全の本陣が西に位置し西陣、勝元が東陣である。両軍の軍勢が寺や京都の屋敷に火をかけた合戦取り合戦であった。最大の戦いは「相国寺の戦い」でその後一進一退の膠着状態となりやがて宗全、勝元と死に戦いは静まった。戦いは地方に波及し「戦国争乱の序曲」となった。

江戸のことわざ

【 鶯 な か せ た こ と も あ る 】

梅の花香に惹かれた鶯が梅が枝で盛んにさえづったように、私だって若いときは魅力にあふれチヤホヤされたもんだという、今は老女となった女性の回顧である。鳴かされているのは男である。「鶯」は男なのである。ところがいつしか年老いた男が昔を思い出して語っている言葉と思われるようになった。ウグイスについては、「花の内の鶯、花ならずして芳し」日本的感性の梅・鶯である。

江戸こぼなし 【投げやり】

最近、槍の稽古に行くようになってからのせがれの様子を見ていると、する事なすこと、すべていい加減で困ったもの。しつけの厳しい武芸の道に精進しながらなんたることだ、と、変に思った父親が、師匠のところに出掛けて行って、「せがれが槍の稽古を始めるようになってから、日増しにぞんざい者になっていきますが、先生の槍の流儀は何でございます?」と聞くと、「拙者の流儀は投げ槍」

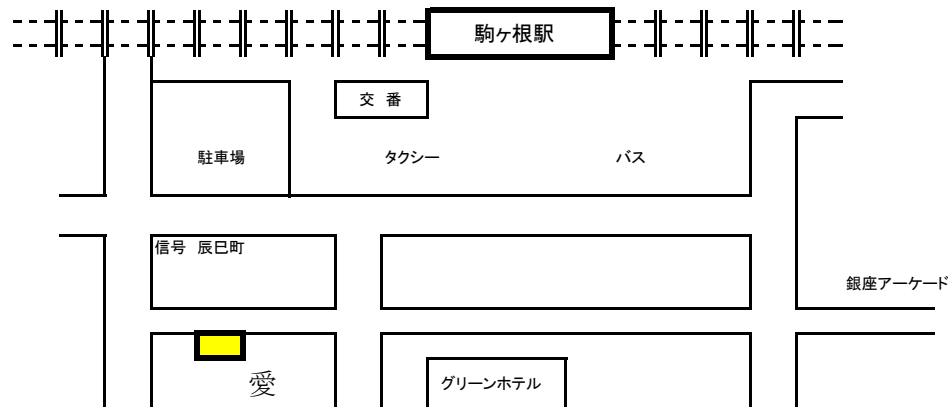
蕎麦豆知識 【麺 棒】

生地を延ばす時に使う棒。江戸風に四つ出しにするしきは、数本の麺棒が必要だが、丸く延ばす場合は1本で延ばす。一般的には長さ120センチ位。昔の物に2メートル位の物もある。材質としては、朴(ほう)の木が多い。子供などは叩かぬように。

源氏物語 【物語の概要①】

頭中将の長男柏木は少年時代から女三の宮に思慕を寄せていた。その思いが高じて密通に至る。柏木は朱雀院五十賀の試楽に招かれ、源氏に皮肉を言われ亡くなっていく。夕霧は落葉の宮を見舞うちに恋をして結婚する。紫の上は二条院で仏道に心寄せながら43歳の秋亡くなった。源氏は悲嘆に暮れて一年あまりを喪に服し52歳の歳末を迎えた。光源氏の物語はここで終わる。この後源氏は出家して、数年後には亡くなる。

おいしい“ソースカツ丼”のお店 【駒ヶ根市編】



☆ ソースはさっぱりした味。あさりのみそ汁がついてきます。

数学の時間

500円、100円、50円、10円、5円、1円の硬貨をそれぞれ1枚は使い、15枚で750円にして下さい。

てん茶

花粉症にきくらしい。てん茶のてんは、あまいという意味。砂糖に比べて極端にカロリーが低い。てん茶は薔薇科、普通のお茶はつばき科で普通のお茶の類には入らない。

数学の時間の答え 《 16号 》

Ans = 5時間 27分 $\frac{3}{11}$ 分後